

061

編集後記

益城西原消防署 広報誌編集委員長 田中 寿一

本誌は、熊本地震の震源地となった益城町及び西原村の最前線で活動した職員の苦悩と活動を、何らかの「カタチ」として次世代に伝えたいという思いから作成したものである。

今になって振り返ると、災害活動中に撮影した画像や動画が少なく、心理的にも撮影する余裕すらなかった。今後伝えるべき記録として考えるならば、撮影することも一つの手段であったと考える。

また、地震の規模が想像以上で車両や資機材、消火栓さえ使うこともできず、普段の消防活動で当たり前のように使用しているものが選択肢にない状況も今後の課題として取り上げておきたい。

今回の地震は、わたし達にとって色々な面が試された災害であった。いつ終わるかわからない状況下で、命をも落とす可能性があったなか、職員に怪我や病気もなく10日ぶりに各々が顔を合わせた交代式では、少しだけ”安堵感”を感じた。

一日一日と署や管内の状況が落ち着くにつれて、わたし達の記憶が薄れ、今回の熊本地震で経験した思いを風化させないよう、益城西原消防署の声としてこの「記録」を伝えたい。

最後に、この度の熊本地震の際、早速丁寧なるお見舞（支援物資、お手紙）、励ましのお言葉をいただき厚く御礼申し上げます。

幸いにも被災地でありながら、皆様方より多大なるご支援をいただき、オール益城西原として心をひとつにし復興に向けて動き出しております。お心遣いに感謝し、本誌を通じて御礼申し上げます。

終

